

# 新報

島根県教育庁  
隠岐教育事務所  
隠岐県島根郡海士町  
電話2-9772

## 海士町の取組紹介

### 「海士町教育大綱策定」

本町では「海士町教育大綱（以下教育大綱）」の改訂に向けて、前年度までに島の様々な方に意見を伺いながら作業を進めてきました。

そして、今年度「自分らしく生きる志を育む島へ」というスローガンで、新しい教育大綱が出来上がりました。教育大綱の基本方針には『認め合う心』『たたえ合う仲間』『高め合う学び』を育みながら、学校・地域・行政による『島まるごと教育』を進める」とあります。

これまで学校・地域・行政はそれぞれの立場で子供たちを育んできましたが、離島であることのよさを意識しながらより一層手を取り合っていくことで「島まるごと教育」の本質に迫っていく

と考えます。

この教育大綱を教育の羅針盤として、海士町だからこぞできる教育を創っていきたいと思います。

### 島前三島合同の先進地視察

九月二十五日から二十七日までの日程で、島前ふるさと魅力化財団主催による教育先進地視察がありました。

「令和の日本型学校教育」についての研修であり、個別最適な学びと協働的な学びをセットで考えること、ICTを学習や校務の中でより効果的に活用していくことなどのヒントをつかむことが目的でした。海士町教育長をはじめ島前三島各学校の管理職や教諭の先生方にご参加いただきました。

足立区立興本扇学園（リーディングDXスクール指定校）、目黒区立中目黒小学校と鳥森小学校（午前五時間制

四十分授業の研究開発指定校）の三校に出向き、研究授業・協議会、普段の授業の様子を視察しました。

三校に共通して見られたことは、「若手教員が生き生きと仕事をしていること」と「学校と行政が密接に連携していること」です。

参加させていただいた研究協議会では、若手の教員が研究主任を務め、活発な協議が行われていました。経験年数に関係なく授業で見られた子供の姿を中心に話し合いをしており、教員間での「対話的な学び」が見られました。また、各学校が取り組もうとしている特色ある教育活動に対して、教育予算の拡充や、指導主事を中心に行政全体で学校を支援していることを強く感じました。

一方で隠岐の教育のよさも再認識できました。一人一人の子供との距離感の近さ、地域と学校のつながりの強さ、図書館教育の充実ぶりなどは、やはり私たちの強みだと感じました。

視察を通して、自分たちのよさを生かしつつ新しい考え方や手法を取り入れるこ

との大切さ、島前三島がそれぞれの魅力を共有し互いに高め合っていくことの重要性を感じることができました。

（派遣指導主事 福山）

### 若者と地域の共創

海士町では、二〇〇〇年の国勢調査による人口推移予測で、三〇年後には現在よりも約一〇〇〇人減少する見込みでした。そこで、島前地域では若者の滞在人口を増やし魅力的な地域づくりを行うため、令和二年から「大人の島留学制度」を実施しています。

「大人の島留学制度」  
全国各地の二〇代の若者が島で働きながら島暮らしを体験できる就労型お試し移住制度

特に海士町は積極的に受け入れを行い、年間約一〇〇名の若者が来島します。仕事以外でも、若者の培ってきた経験を町づくりに生かすことを目的に、公民館事業や地域行事など様々な社会教育活動に協力してもらっています。

夏休みに五泊六日で行うアドベンチャーキャンプも

その一つです。このキャンプには多くのスタッフが必要です。今年度、スタッフの三分の一が大人の島留学生（以下島留学生）であり、主に子供と一緒に活動したり相談のつたりする役割でした。

私はアドベンチャーキャンプを担当して三年目になりますが、

○子供だけでなく関わるスタッフ（若者）につけたい力を明確にする。

○スタッフに任せるところは任せ、自分はサポートに徹する。

○一人一人の島留学生の話（思い）を積極的に聞く。

以上三つのことを特に大切にして事業に取り組んでいます。子供たちの成長を見るのはもちろんのこと、関わった若者の顔が一日一日たくましくなっていくのは、とても嬉しいことです。実施回数を重ねるごとに、参加者の成長が、ねらいに近い感じているように思います。

私は派遣社会教育主事となった当初、地元住民の手で各地区を活性化させたいと考えていましたが、同時にその困難さも感じていました。

しかし、島留学生をはじめとする若者が地域住民に関わることで、大きな変化が生まれるようになりました。多くの若者が、綱引き大会やソフトボール大会などにも積極的に参加し、地域での存在感や貢献度が増えています。地区の祭りについても、人手不足が解消し今年度は五つの地区で行うことができました。住民が集まることでつながりが深まり、さらに次の活動へと発展するなど各地区が住民自らの力で動きだす姿が見られるようになってきました。

減少予測であった人口も、ここ最近増加する傾向にあります。島留学生だった若者がそのまま海士町で就業するケースも増えていきます。行政主導で始まった「大人の島留学制度」ですが、多くの事業所や地域住民が一体となって取組を応援し、結果、地域が盛り上がりを見せています。今後も社会教育主事として、若者と地域のつながりを大切に、本町の人づくり・町づくりに尽力していきたいと思えます。

（派遣社会教育主事 池田）